

二つ以上の漢字の意味を組み合わせてできた会意文字

こうした単独の象形文字や指事文字の成り立ちが少しずつわかってくると、それらが他の漢字の一部(部首)として、さまざまな形で組み合わせられて使われていることも、これまで以上に意識するようになってきます。

すると今度は、象形文字や指事文字を二つ以上組み合わせてできた漢字について、その成り立ちを調べてみます。

複数の文字を組み合わせてできた漢字には、それぞれの文字の意味を組み合わせて別の言葉を表す会意文字と、^{へん}扁が意味を表し^{ふく}旁が発音を表すというように、意味と発音を組み合わせた形声文字がありますが、このうち、幼児にもわかりやすい会意文字のほうを中心に、漢字の成り立ちを見ていくといいでしょう。

たとえば、田んぼで力仕事をする人という意味で“田”と“力”を組み合わせると“男”、人は休憩するときに木陰を選ぶことから“人”と“木”を組み合わせると“休む”、“鳥”と“口”で“鳴く”、“日”と“月”で“明るい”、重いものでも力を出せば動くことから“重い”と“力”で“動く”、さらにこの“動く”に“人”を組み合わせると“働く”……、このように一見複雑そうに見える漢字の成り立ちにも、きちんとそれなりの理屈や法則性があることがわかってくると、漢字がますます面白くなってきますし、言葉の意味もよりはっきりと理解できて忘れることがないのです。